

平成 27 年度宗像市景観まちづくり講座に関する報告

1. 実施概要

- 開催期間：平成 27 年 11 月 28 日（土）～ 平成 28 年 2 月 27 日（土）
- 回 数：全 6 回
- 定 員：各回 50 人（のべ 176 人参加、約 29 人/回）
- 受 講 料：無料
- 募集方法：市広報 / 市ホームページ / 市役所、コミュニティ・センター等にチラシ配布 / 市公式 Facebook / 市景観まちづくり Facebook
- 当 日：講演（70 分程度） / 対談コーナー（30 分程度） / 受講者にアンケート記入を依頼

2. 各回の概要

第 1 回	日時・場所	平成 27 年 11 月 28 日（土） 午前 10 時～12 時 宗像市役所北館 1 階 103 会議室
	テーマ・講師	『唐津街道の歴史と歴史的な建物のある風景』 郷土史研究家 有田 和樹さん
	講座の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代の地形図や古写真、東海道五十三次の浮世絵などを用いて、当時のまちなみや山並みと現在の風景を比較しながら、今も街道筋の雰囲気を残しているものや、変わったり、なくなったりしたものについて、解説していただいた。 ・原町、赤間宿のほかにも、糸島市の前原宿や福津市の畦町の事例なども紹介。原町では許斐山、赤間宿では城山の方向に向かって緩やかな登り坂になっていること、赤間宿では建物の兜造りや白壁が他にない特徴になっているとのこと。 ・まちづくりに若い人の力を活かすにはどうすればよいか？という質問に、小学校の授業で遺跡を見学して歴史に興味を持つようになったご自身の経験から、「子どもの頃からフィールドワークなどを体験できる機会を持つことが一番大事。」とアドバイスをいただいた。
	参加人数	28 人（アンケート回収：26 人）
第 2 回	日時・場所	平成 27 年 12 月 12 日（土） 午前 10 時～12 時 5 分 宗像市役所北館 1 階 103 会議室
	テーマ・講師	『公共施設と地域の景観』 (株)環・設計工房代表取締役 鮎川 透さん
	講座の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設と景観のたまかな定義をはじめとして、今ある公共施設は明治以降に施策的に創られたもので 130 年ほどの歴史しかないことや、日本とヨーロッパの景観施策の違い、景観の視点から公共施設に求める役割（シンボル性、地域の固有性、親しみやすさ等）があることなどの話題を提供していただいた。 ・まとめでは、公共施設の発注の際は行政が景観の視点で設計条件をつくる必要があること、その行政に意見をいうのは市民の問題であることを指摘され、そのために公共の概念を学習しつつ、みなさんが良し悪しを考えながら公共施設を見ていくと、宗像の景観も変わるのではないかとエールをいただいた。 ・建物を「創る」うえで気をつけることは？という質問に「何を目指して創るのか、目標をはっきりさせるべき。そのために住民と行政側がしっかり話をすべきだろう。」とアドバイスをいただいた。
	参加人数	28 人（アンケート回収：26 人）

第 3 回	日時・場所	平成 28 年 1 月 9 日（土） 午前 10 時～12 時 宗像市役所北館 1 階 103 会議室
	テーマ・講師	『公共施設と地域の景観』 九州大学大学院 人間環境学研究院 助教 柴田 建さん
	講座の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・かつての郊外ニュータウンが「オールドタウン化」している現状を説明していただいた。そのうえで、新築から中古住宅のリノベーションに価値を求める若者が増えたこと、住宅地の中にカフェや工房などが増えてクリエイティブな場に変ったまちの例など、郊外で起きている様々な住宅地継承の形が紹介された。 ・均質なコミュニティや景観を脱却し、外の人々をつなぎ、世代や機能をミックスさせ「混じって暮らす」ことを地域ごとに模索していくことが大事だと提言された。 ・以前より店舗や賑わいがなくなっている中で、地域や行政にできることとは？という質問に「まず人口で勝負しないこと。そこに暮らしている人の幸せが大事。それには、個人や地域から動くことが大切で、1 軒の変化から個性が生まれ、周りに波及する。それを行政がサポートすることが大事。」とアドバイスをいただいた。
	参加人数	27 人（アンケート回収：25 人）
第 4 回	日時・場所	平成 28 年 1 月 23 日（土） 午前 10 時～12 時 宗像市役所北館 1 階 103 会議室
	テーマ・講師	『宗像の風景と地域ブランド』 九州大学大学院 人間環境学研究院 教育学部門 専任講師 田北 雅裕さん
	講座の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランドを「可能性が感じられる地域の個性、らしさ」と定義づけ、「ひとりひとりが地域に抱く「特別な思い」を、他者と分かち合える可能性に昇華し、地域の持続的な発展につなげていく行為」を「地域ブランドづくり」とし、そのプロセスについて、宗像の風景との関係もまじえながら、解説された。 ・地域に対して放っておけない気持ちを持っている人がまち（地域ブランド）づくりの担い手であり、行政界や地元こだわらず、担い手のネットワークを広げていくための情報デザインやコミュニケーション戦略が重要であることについて、様々な活動事例に沿って紹介された。 ・活動の中心メンバーの周辺にいる人への関係の広げ方は？という質問に、ご自身の経験から「自分でできることでも人に頼ることが大事。人に託してみたら状況が変わり関係が広がった。頼むと迷惑かも？と遠慮している時点で相手はそれ自体を受け入れるので迷惑とは感じない。」とアドバイスをいただいた。
	参加人数	37 人（アンケート回収：32 人）
第 5 回	日時・場所	平成 28 年 2 月 6 日（土） 午前 10 時～12 時 宗像市役所北館 1 階 103 会議室
	テーマ・講師	『農・漁の風景と食文化』 森の新聞社代表 森千鶴子さん
	講座の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・その土地で生きてきた人が自分達の地域をもっと知って住みよくするために「歩く、見る、聞く」ことを実践する「地元学」について、各地での取り組みを解説していただいた。宗像市においても大島や鐘崎、南郷などの集落で「食の地元学」を実施し、食べ物を語ることで地域の暮らしの姿が見えてくることを示し、生活の視点でもう一度景観を捉えなおしていくことを紹介された。 ・景観については「身近にあると気づきにくい、昔ながらの文化を残す＝土地の暮らしを守る＝地域の景観を残すことになる」とのこと。 ・統計的に高齢化が進んでいても住民がすばらしい地域と思っている場合はどう評価したらよいか？という質問に、「統計によらず、その人にとって今住んでいる所が豊かであればそれでよい。まちづくりをがんばっている人には 60 歳以上の方が多い。若者はそういう先輩方の姿を見ていると思う。」とアドバイスをいただいた。
	参加人数	30 人（アンケート回収：27 人）

第 6 回	日時・場所	平成 28 年 2 月 27 日（土） 午前 10 時～12 時 10 分 宗像自治会館 2 階大会議室
	テーマ・講師	『文化遺産からはじまるまちづくり～太宰府市民遺産と景観～』 太宰府市教育部文化財課副課長 城戸康利さん
	講座の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財は法的な要件を満たすものだけを保護するのではなく、日々の生活を豊かにするためにあるのでは？との思いから、太宰府では「太宰府市民遺産」を使ってまちづくりを進めるようになった。太宰府市民遺産は、個々の文化遺産を組み合わせ物語にして大切さを理解し、それを残していきたい人々が力を合わせて育てていく取り組みで、現在 11 の市民遺産が登録されているとのこと。 ・景観も文化遺産も未来の人々に感謝してもらえるように、自分たちで試行錯誤しながら、伝えようとする心を持ち、うまくいなくても寛容な気持ちで取り組むことが大事、と提言された。 ・「景観は変わるのが当たり前。変える時に、大切なものを残すか残さないか、未来への意志を持って考えて決めることが大事。」とおっしゃり、若い世代に活動に参加してもらうには「地域活動の意味について、今はわからなくても、将来、気づいて活動を始める人もいると思うので、若い世代にちゃんと伝えておくという種まきを一生懸命するとよいと思う。」とアドバイスをいただいた。
	参加人数	26 人（アンケート回収：25 人）